

C—9 民俗衣装に関する研究(第3報)
—旧秋月藩黒田家の陣羽織—

近畿大女短大 ○久保田初枝
福岡教育大 後藤 信子

1. 郷土に残されている衣服および、服飾品を調査研究することを目的とする。さきに第1報、第2報は九州支部総会に於いて報告した。それにつづくものである。

2. 今回は旧秋月藩黒田家の陣羽織のうち未発表の「白羅紗藤巴御紋つきの陣羽織」の型態、構成、および素材、紋様について調査した結果を報告する。

3. さきに調査した陣羽織の型態としては、袖無し、馬乗の羽織型のもので、素材も当時の輸入品である羅紗地の単衣仕立であったが、今回の陣羽織は腰部で切替え、上部を袴風に肩山に鯨骨を用いて張り、下部は箱ひだスカート型のもので、素材には羅紗と唐織を用いて袷仕立とし、裏地は上部をぼたん、ざくろ紋様の紋綸子、下部は裾さばきを考へてのことであろうか、甲斐絹が用いられている。胸の飾り紐には緋色の組紐を、「けまん結び」に大きく飾り、より一層豪華なものにしている。当時の陣羽織は実戦に使用するのではなく大名としての権勢を保持するための儀式用陣羽織であったことを証明できるものではないかと考えられる。

この陣羽織が儀式用か否かについては、今後の調査研究により明らかにしたいと考えている。